

## 無藤ゼミ シラバス

第1回 10月28日(月)

テーマ: 幼児教育・保育の本質—「愛と知の循環」理論—

### 主な内容

- ・権利主体としての子ども
- ・子どもの遊びと学び
- ・「愛と知の循環」としての幼児教育

### 講師コメント

三要領・指針の考えをいかに深掘りしていくかを3回のゼミを通して考えていきたい。

幼児教育・保育は根本に子どもの(人間の)尊厳を置き、そこから子どもの権利の充足と発揮を促し、ウェルビーイングへとつなぎ、そこから主体的な関わりを拡大していく。その主体的な関わりは保育内容に代表されるこの「世界」への関わりを展望するものとなる。それは何より子どもはこの世界に生まれると同時に入りこみ、世界の多様なあり方といろいろな人がいるというところに出会い、それを肯定する経験をしていくのが保育の働きなのである。その世界を具体化するのが園の環境であり、そこに出会い、驚き(センス・オブ・ワンダー)、そこから呼び掛けに呼応して、子どもは思いついたことをする。それが遊びであり、その遊びを通して環境の特徴に気づき、さらにそこから仮の実現したいことが生まれ、目標に向けての工夫が生まれる。そこに学びが生じるのである。そのような過程は環境への関わりを通していろいろなことが好きになり、またその特徴を分かっていくことなのだが、それが濃密になることを愛と知と呼び、そこでの小さな活動が繰り返されて発展していくことから、「愛と知の循環」というプロセスが保育となるのである。

第2回 11月5日(火)

テーマ：園環境と保育実践―「空間」を踏まえた保育実践各論―

#### 主な内容

- ・園環境から捉える遊びと学び
- ・具体的な活動の展開(制作、自然、ごっこ遊び)
- ・子どもの遊びと学びを支える保育者の専門性

#### 講師コメント

園の環境との出会いが保育の決定的な契機である。園という空間は独自に子どもが中心となる活動をするために一定程度閉じて構成される。そこで何にいかに出会うか。それは保育者が構成した環境なのだが、そこで何を子どもが感じ、考え、作り出すかはそこでの創発的な出来事である。子どもは新たなことを始めるのであり、それを広く環境を通しての世界への出会いへと変えていくのが園という空間である。その遊びは少しずつ世界への関わりということが明確になっていく。そこでいくつかのことが起きていく。自由な思いつきをすることの楽しさが環境での可能性の発見となっていく。それが世界へと広がるところで、大人があることにながっていく。それはごっこ遊びから展開する演技ということ、ものを見立て作り出していく模型ということ、周りの自然や社会で存在し活動されている本物への探索ということ、さらに絵本などのメディアを介しての実物また虚構の多種多様な世界の始まりということである。保育者はそのあり方を知ることによって保育者となるのであるが、それを実践するとは保育者もまた演技し、作り出し、探索し、始まりを知るのであり、それが保育者としての大人の経験と保育者としての活動の経験を背景として園の文化の一翼を担い、子どもを文化的なあり方へと導くのである。保育者はその実践を子どもの活動を含めて、振り返ることで高めていき、園としての保育の良さを作り出していく。

### 第3回 11月18日(月)

テーマ：研究と実践と制度の架橋—平成期以降の展開と無藤先生の歩み—

#### 主な内容

- ・幼稚園教育要領等の変遷とその言語化
- ・幼児教育・保育をめぐる社会変化と制度
- ・実践と研究の協働

#### 講師コメント

幼児教育・保育が19世紀半ばから20世紀そして1990年前後に何を作り出したのか。囲われた場としての園の中での子どもの活動、子どもが中心となる活動としての展開、環境への出会いと創発としての活動、そして現在世界への入り込みの始まりの場としての遊びとして発展してきた。そのような考えは要領・指針としてどう言語的に実現してきたか。その過程は、実践者、研究者、行政者の相互的關係が園という場で具体化し、要領・指針等の方針として言語化され循環してきた歴史である。特に1990年前後以降、幼児教育・保育の公的教育としての位置づけの明瞭化と普通教育化が進んできた。決定的に家庭での養育と小学校以降の義務教育の間の独自の時期と教育の場として位置付いたのである。そこに向けての特に2017年改訂の意義の詳細を論じる。さらに保育学の構築がそれと絡みつつ、実証研究、実践に近い質的研究、思想的検討、があいまって進み、21世紀の20年間での保育学の確立とそこでの「保育学的思考」の編成と実証研究と制度・政策構築のつながりを今作り出している。その現場の園また園の連合とそこに研究者が関わり行政側が支援するあり方としての「生成的運動体」理論を述べたい。最後に今後の保育学の可能性のいくつかを論じたいと思う。